

性感染症に関する豆知識⑭ 細菌性膣症編



- 普段体内にいる菌が膣で繁殖します。病気や妊娠などで抵抗力が落ちたときに菌が繁殖するので体調維持に気をつけましょう。半数は無症状ですが、おりものが増えます。
- 感染すると子宮内に炎症が広がり、早産することがあります。赤ちゃんが肺炎などを起こす場合もあります。
- 産婦人科に行き、膣のおりもので検査します。治療方法は1週間、膣に錠剤を入れます。免疫はできないので、何度でもかかります。

性感染症に関する豆知識 ケジラミ症編

- 原因はケジラミという陰毛にしがみついた吸血昆虫です。予防は感染しているパートナーとのセックスを避けること。シーツやタオルの共用でもうつります。
- 感染したら、湿疹はありませんが、陰部がかゆくなります。女子は皮膚科や産婦人科、男子は皮膚科や泌尿器科へ。
- 治療方法は2週間薬を塗ります。また、薬局で販売しているシャンプーやパウダーでも治療できます。免疫はできないので何度でもかかります。





性感染症に関する豆知識 No.82(ケジラミ症編)

治療方法は2週間薬を塗ります。また、薬局で販売しているシャンプーやパウダーでも治療できます。免疫はできないので何度でもかかります。

性感染症に関する豆知識 No.83(疥癬編)

疥癬はヒゼンダニ（疥癬虫）が人の皮膚に寄生しておこります。性行為でかかるのは10%くらいで多くはタオルや寝具の共用でかかります。

性感染症に関する豆知識 No.84(疥癬編)

かかると指の間や性器など首から下の全身の皮膚に赤いぶつぶつができ、とてもかゆくなります。男女ともに皮膚科に相談してください。妊婦が治療していれば母子感染はありません。

性感染症に関する豆知識 No.85(疥癬編)

治療方法は患者さんと接触者を含めて、飲み薬を1回。さらに全身にローションを塗ります。免疫はできないので何度でもかかります。





性感染症に関する豆知識 No.86(軟性下疳編)

原因は軟性下疳菌。戦後国内の報告は稀です。東南アジア・アフリカ・南米では梅毒より多い地域もあります。性行為でかかる輸入感染症です。

性感染症に関する豆知識 No.87(軟性下疳編)

かかって2日ほどで、男子はおちんちんに、女子は膣の周りに潰瘍ができ、2週間後には鼠経のリンパ節が腫れます。ともに強い痛みがあります。

性感染症に関する豆知識 No.88(軟性下疳編)

男女とも皮膚科へ。検査して、性器ヘルペスや梅毒と区別することが大切です。1週間以内の飲み薬で治りますが梅毒やHIVに同時感染している場合もあります。

性感染症に関する豆知識 No.89(性器伝染性軟属腫、水イボ編)

原因は伝染性軟属腫ウイルスです。皮膚からウイルスが侵入し、2週間から数ヶ月後に陰部周辺の皮膚に多数のイボができます。男女ともに皮膚科に相談。

性感染症に関する豆知識 No.90-1(性器伝染性軟属腫、水イボ編)

治療薬はなく、ピンセットでつまんで取ります。切り取ることも。免疫はできないので、何度でもかかります。自然に治るまで数カ月以上かかります。

性感染症に関する豆知識 No.90-2(性器伝染性軟属腫、水イボ編)

水イボがある人との性行為やタオルの共用を避けましょう。以前はほとんどが子供からの感染でしたが、性行為での感染が増えてきています。



性感染症に関する豆知識（おまけ）

今回からは性感染症ではありませんが、
妊娠や赤ちゃんに影響する一般感染症について
「おまけ」としてお届けします。



No.S1(サイトメガロウイルス感染症)

原因はサイトメガロウイルス（CMV）です。
母乳、子供の唾液や尿、輸血などから感染します。妊娠中は子供の唾液や尿に触らない
ようにしましょう。

No.S2(サイトメガロウイルス感染症)

ほとんどが幼児期に感染します。妊娠可能女性の70%がすでに感染しています。
症状はありません。
未感染の女性が妊娠中に感染する確率は2%で、その約40%で母子感染します。

No.S3(サイトメガロウイルス感染症)

母子感染すると出生時に症状がなくても難聴や精神発達遅延が出てくる可能性が
あります。
先天性感染症児の90%が発達障害や難聴などの後遺症が残ります。

No.S4(サイトメガロウイルス感染症)

子供や大人は症状がないので治療する必要はありませんが、症状が出て必要な場合は
飲み薬や点滴で治療を行います。



性感染症に関する豆知識（おまけ）

妊娠や赤ちゃんに影響する一般感染症について「おまけ」としてお届けします。



No.S5(トキソプラズマ感染症)

トキソプラズマ原虫が原因です。全人類の3分の1が感染していますが、無症状です。妊娠女性のみ産婦人科に相談ください。

No.S6(トキソプラズマ感染症)

妊娠中は特に、肉の生食やネコなどの糞との接触を避けましょう。妊娠中に初感染しても無症状ですが、約30%で赤ちゃんに感染します。

No.S7(トキソプラズマ感染症)

妊娠中に感染することで、流産や死産になることがあります。生まれた後に神経発達障害、視力障害、脳性麻痺になることがあります。

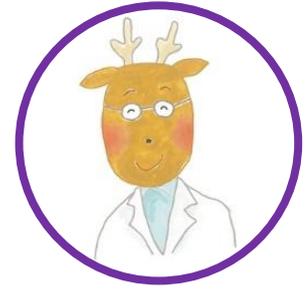
No.S8(トキソプラズマ感染症)

妊婦健診で採血検査をする場合がありますが、一般的ではありません。初感染した妊娠女性は飲み薬を出産まで続けます。



性感染症に関する豆知識（おまけ）

妊娠や赤ちゃんに影響する一般感染症について「おまけ」としてお届けします。



No.S9(風疹、三日ばしか)

原因は風疹ウイルスです。風疹ワクチンを打っていない人や打っていても抗体価が低下している人はかかりやすいので大流行することがあります。

No.S10(風疹、三日ばしか)

妊娠 20 週以前にかかると赤ちゃんが難聴・白内障・先天性心疾患などをもって生まれる可能性が高くなります。妊娠前に免疫があるか採血検査で確認しましょう。

No.S11(麻疹、はしか)

原因は麻疹ウイルスです。空気感染し、感染力が非常に強いため隔離が必要です。免疫のない人が感染すると 90%以上で発病します。

No.S12(麻疹、はしか)

はしかにかかると一生免疫ができます。麻疹ワクチン接種により 2015 年以降かかることはほとんどなくなりました。



性感染症に関する豆知識（おまけ）

妊娠や赤ちゃんに影響する一般感染症について
「おまけ」としてお届けします。



No.S13(麻疹、はしか)

妊娠中に感染すると、30%が流産や早産に。生まれて10日以内に発疹が出た場合、先天性麻疹とするが症状は発熱などで軽度です。

No.S14(みずぼうそう、带状疱疹)

原因は水痘・带状疱疹ウイルス（VZV）です。空気感染や接触感染でうつります。ほとんどが子供の時期に感染します。

No.S15(みずぼうそう、带状疱疹)

母子感染します。感染時期が妊娠中であれば数%以下で先天性水痘症候群や乳児期带状疱疹になります。

No.S16(みずぼうそう、带状疱疹)

感染時期が妊娠10ヶ月以降の場合は20%で赤ちゃんに水痘が出て出産直前では40%が重症になります。



性感染症に関する豆知識（おまけ）

妊娠や赤ちゃんに影響する一般感染症について「おまけ」としてお届けします。



No.S17-1（成人T細胞白血病(ATL)）

原因はヒトT細胞白血病ウイルス（HTLV-1）です。全国に100万人以上のウイルスキャリアがいます。

No.S17-2（成人T細胞白血病(ATL)）

数十年後に成人T細胞白血病になる場合があり、発症率はキャリアの5%で発症数は年間1000人です。

No.S18(成人T細胞白血病(ATL))

感染者の20%は性行為によって、60%は母乳によるものです。母乳をやめる完全人工栄養が奨められています。

No.S19（伝染性紅斑、リンゴ病）

原因はヒトパルボウイルスB19（PVB19）です。子供の頬が赤くなるリンゴ病を起こします。4～5年周期で流行します。かかると一生免疫ができます。

No.S20（伝染性紅斑、リンゴ病）

妊婦の抗体保有率は50%以下。妊婦が初感染すると約20%で母子感染し、4%で胎児の貧血や水腫が生じるが多くは重症になりません。

